



■転倒リスクを「立位年齢」で見える化

人生100年と言われ、超高齢者社会に突入している日本。平均寿命が延びている中で問題となっているのが、要介護期間の長期化だ。

厚生労働省の2016年国民生活基礎調査によると、介護が必要となる原因は「認知症」「脳血管疾患」「高齢による衰弱」が多く、次いで「骨折・転倒」と続く。転倒は、病気以外の原因のトップとなっている。転倒の問題は高齢者にとどまらない。職場での転倒災害は20年で3万929件（休業4日以上）と労働災害で最も多く、近年増加傾向にあるという。



そうした中、19年設立の横浜国立大学発のベンチャー企業UNTRACKED（アントラクト、横浜市保土ヶ谷区、神谷昭勝代表＝写真右）は、立位機能検査システム「StA²BLE（ステイブル）」を開発し、転倒リスクを「立位年齢」として数値化する取り組みを行っている。同社が商標登録した「立位年齢」を「StA²BLE」は1分の計測で算出、自分のどのバランス機能が弱っているかを知ることができる、という。

転倒リスクを「立位年齢」により「見える化」することは、生活習慣病予防のための血圧・胸囲測定や血管の強さを血管年齢で表現することと同様、立位機能の数値化だ。「立位年齢」の測定で利用者も管理者も転倒リスクを数字で共有でき、例えば、リハビリプログラムの策定や進捗（しんちやく）、転倒予防策や従業員の安全配慮を取ることができるようになる。

同社は、今年2月のかながわビジネスオーデションで県信用保証協会賞を受賞するなど、活躍が目されている。健康に過ごせる「健康寿命」の延伸を実現するだけでなく、「労働力の確保や医療費の削減につなげることができる」と、その普及に注力している。

◇

UNTRACKED株式会社 〒240-8501横浜市保土ヶ谷区常盤台79の7 横浜国立大学総合研究棟E206-1A。https://www.untracked.co.jp/

（情報提供・県よろず支援拠点／実施機関：神奈川産業振興センター）